

# 自然の中で 野外教育情報

2016 | 第4号 | 「アイオレ(IORE)と私」

◆今号の特集◆

平成28年7月15日発行

公益財団法人 日本教育科学研究所

## わたしのIORE

平野 吉直 (信州大学理事・副学長)

私とIOREとの出会いは、1995年8月に開催された国立那須甲子少年自然の家での第3回アウトドアゲーム指導法講習会です。この講習会で講師として関わらせていただいたことが始まりでした。

それ以来、アウトドアゲーム指導法講習会には、これまで29回開催されたうち、25回の講習会に携わってきました。

私は大学で野外教育を教えています。私にとってIOREは、大学の授業はもとより、小学生対象のキャンプ、中学校1年生を対象にした中1ギャップを解消するためのコミュニケーション学習、家庭裁判所と連携し非行少年の矯正を目的とした合宿キャンプ、中高年の健康づくり講習会、学校教員を対象とした教員免許状更新講習における演習など、アウトドアにおける数々の実践場面で、一年中活動を共にする「頼り甲斐のある相棒」です。

数多くあるIOREシートの中から、私のベスト5を勝手に発表させていただきます。

第5位は、「林間立木取り」…大勢の子どもが楽しく林間で体を動かせます。第4位・第3位は、「ちょっとだけよ」と「カメレオンゲーム」…どちらのゲームも、作成する・隠す・発見する喜びと楽しさが満載です。第2位は、「森のレストラン」…いつやっても楽しく夢中になれるゲームです。そして栄えある第1位は、「森のつながり探し」…いつでも、どこでも、特別な準備の必要がなく、自然について楽しく理解を深められるゲームです。この「森のつながり探し」は、第8回のアウトドアゲーム講習会で参加者の皆さんが創作・発表したゲームで、その後IOREシートになったと記憶しています。また、IOREシートにはなっていませんが、最近の私のお気に入りには、「移り木」…準備に手間がかからないように、グループの協力とコミュニケーションがとても深まる課題解決型ゲームです。

今年の10月8日から10日にかけて、記念すべき第30回アウトドアゲーム指導法講習会が国立信州高遠青少年自然の家で開催されます。ぜひお越しください。多くの皆様と一緒にアウトドアゲームを楽しみ、また新たなIOREと出会いたいと考えています。

# 変わるもの・変わらないもの



## 永井 将史

日本独自のパッケージドプログラムである「アイオレシート」の指導法を学ぶ、「アウトドアゲーム指導法講習会」が今年度で第30回を迎えます。

私は、この講習会の講師をこれまでに2度務めました。いずれの講習会も、熱意ある講師と参加者の皆さんによって、活気ある講習が進められていたことを思い出します。

アイオレシートは、開発者や講師だけでなく、講習会の参加者を含む関係者の努力によって、現在では全国の野外教育指導者によって活用されており、この広がりにも多少なりとも関わることができたことを嬉しく思っています。

さて、話は変わりますが、今年度、私自身には大きな環境の変化があり、長年勤務した新潟県妙高市にある専門学校から、東京の大学に職場を移すことになりました。野外活動・野外教育の指導という仕事に変わりはありませんが、活動場所や対象者は大きく変わるようになりました。

これまでの職場では、妙高山や火打山などの頸城の山々を中心とした信越高原のスケールの大きな自然が身近にあり、野尻湖や日本海等、水辺活動に適したフィールドも近くにありました。また、冬になれば日本有数の豪雪地帯ならではの雪上のフィールドも日常的な活動の場所として使うことができました。そのため、パッケージドプログラムを活用する機会は多くはなかったように思いま

すが、言い方を変えれば、そういった自然環境を活用したパッケージドプログラムを開発して活用していたと言えるかもしれません。

一方、新たな仕事はまだまだ手探りの段階ですが、大学生に自然体験活動に興味を持ってもらうためにどうすべきかを考えた時、アイオレシートをはじめとしたパッケージドプログラムが、やはり頼りになります。身近な自然で、あるいはキャンパス内で、自然や人と関わる活動の魅力を伝えるためのツールとしての有効性を改めて実感しているところです。

特にアイオレシートは守備範囲の広いパッケージドプログラムなので、活動する環境に合わせて多彩な選択とアレンジができる強みを持っています。場所によってはシートに記載されている通りに行うことが難しいプログラムもあるかも知れませんが、少しの工夫で魅力的な活動として実践することができます。

このように、パッケージドプログラムの有効性を再認識しているところですが、同時に、自然の中で活動する上で、どんな環境でも変わらないものがあることも改めて感じています。

それは、自然や人との出会いは、一つとして同じものがない「一期一会」である、ということです。このことこそが自然体験活動の魅力の源の一つで、それは、体系化されたパッケージドプログラムを行う時でも変わらないものだと思います。

今後も一期一会の出会いに感謝する心を忘れず、自然と人に関わっていききたい。自分自身の環境の変化の中、そんなことを考えています。

### ● 永井 将史 【ながい まさし】

東京女子体育大学 野外運動研究室 講師

1978年生まれ。広島県出身。筑波大学大学院体育研究科修了。大学院修了後、国際自然環境アウトドア専門学校講師に就任。専修学校での職業教育に従事する傍ら、自然体験活動に関する多くの事業に携わる。同専門学校副校長、一般社団法人新潟アウトドア企画代表理事等を経て、2016年度より現職。



戸隠の秋 子どもと自然の一期一会

# 現場はアイオレを待っている



講習会の地方開催を積極的に!

## 高瀬 宏樹

いまでもよく覚えている。

私が、大学生のとき、恩師が「ちょっと新しい教材をつくる合宿をするから、お手伝いを募集したいのだけど」と声をかけてきた。私の恩師は淑徳大学の土井浩信氏である。

当時珍しかったノート型パソコンをにらめっこする先生方。水上のロッジに集まっての執筆合宿。それがアイオレシート誕生に向けた合宿だったはずである。校正原稿を目にした私は興奮気味に「いいですよ、これ」と言ったのを覚えている。

キャンプ指導者として活動していた私は、プログラムを先輩がやっているのを見て学ぶといった方法でしか教わる方法がなく、工夫して歌集を作ったり、しおりを作ったりすることに「ほかに何か良い方法がないものか」と思っていた。野外教育関係の書籍もさほどない。そんな時代に現われたアイオレシートは画期的だった。

コーティングされているので、湿気の多い日本の夏にも全く問題ない。必要なシートだけ野外に持ち出して使う。それがとても格好良い。「ファイルは取り外し式にしたほうがいいのか」とか、さまざまなアイデアを投げかけたような気がする。

その後、それを活用した講習会を行うと聞いて、またアシスタントに立候補。そして、その後は講師にも使っていただいたのだが、振り返ってみれば、私の指導者人生とアイオレシートはほぼ同じ年数のはずである。

いま私は、国立青少年教育施設で働いている。これらの施設はだいたい地方にある。私が勤めている国立室戸青少年自然の家がある高知県を例にとれば、地方にはまだまだノウハウが不足している。キャンプファイアーを指導できるものがないくらい危機的（?!）だ。特に学校教員が野外で指導するノウハウを全くもっていないのだ。

アイオレシートは、これから指導者になろうとする学生リーダーたちにとっても、とても親しみやすく、参考にしやすい。

そういえば初期の頃のシートは、アウトドアスキルや環境系などいくつか分野に整理されていた。分野別に色分けもされていたような気がする。

どうだろう、学校の授業で使えるバリエーションをもっと増やしてみたら。新学期、学級づくりに先生が使えるコミュニケーションのためのプログラム。理科で森の機能を学んだり、水について学ぶ単元で使えるプログラム。社会教育だけでなく、アイオレシートは学校教育でも生かせる。

そして講習会は、もっと地方でやるべきだ。アイオレが大事にしてきたのは、教材を提供するだけでなく、講習会でノウハウを伝えてきたことだ。第一線で活躍している指導者の指導が体験でき、プログラム企画を学び、最後は自らの手でプログラムを作って実践発表をする。この一連の流れをちゃんと学べる講習会はなかなかない。

講習会30回はひと区切り。これからの時代にこそ、アイオレシートは必要とされていくはずだ。

●高瀬 宏樹 [たかせ ひろき]  
国立室戸青少年自然の家 事業推進係長兼企画指導専門職

1969年岩手県生まれ、埼玉県育ち。社団法人日本キャンプ協会での勤務を経て現職。今は国立青少年教育施設を充実させるべく励んでいる。最近はジャパンアウトドアリーダーズアワードと題した指導者の表彰制度を立ち上げ、全国の仲間と取り組んでいる。



課題解決型ゲームを指導する高瀬講師（2010年）

# 人材育成応援としてのアイオレ



アウトドアゲーム指導法講習会と出会った頃

## 河合 佳代子

私はこの講習会に平成10年から17年にかけて4回、講師として参加させていただきました。

この講習会と出会った頃の私は出産育児の真只中。平成10年、当時の那須甲子少年自然の家で行われた講習会の時は、1歳半の長男と離れて、はじめての宿泊型の仕事だったように記憶しています。子どもを置いて出かけることに後ろ髪を引かれつつも、大好きなアウトドアゲームの仕事に携われる喜びいっぱい、意気揚々と家を出たことを覚えています。

講習会にはベテラン講師（土井先生、平野先生、鶴川先生、野口先生等）の他に毎回、ゲスト講師が数名入ります。私もゲスト講師の1人だったわけですが、その人選は地域性、年齢、性別などを頭に入れながらも、多くの若手に「講師としての経験を高めてもらいたい」と考えていたと推察します。

私が声をかけていただけたのも、当時はフリーランスでこの業界に関わる人が少なかったこともあるでしょう。東京開催の講習会に参加するために、実家に乳児の次男を預け、夜は授乳のために帰っていたことを懐かしく思い出しました。

この講習会で、育児と仕事の両立がどうにかできたことは私の自信となり、現在でも自然体験活動の仕事に関わることができているのです。

現在アイオレシート（IORE SHEET）は何枚発行されているのでしょうか。その中の1枚を私も文責しています。それはいろいろなところで経験したゲームを、自分なりにアレンジして、その時の講習会に合う内容に編集し実践したものをまとめたものです。そのゲームがシートとして発行されたことはうれしいながらも、どこまでが自分のオリジナルなのかと考えるところもありました。

その後も、アイオレシートは枚数をどんどん増やしています。しかも新しいシートには、講習会で参加者が考案したゲームの中から、出来栄の素晴らしいものをもとにして作成されているものがあります。自分の作ったゲームがアイオレシートになる！自分の名前が載る！と思えば、ゲームを作るモチベーションもあがるのは当然です。

このようにして、アイオレシートは講習会に集まった人達の知恵と経験が集積されて、今後も作られ続けていくのでしょうか。そしてそれは自分の作ったゲームと名前が「アイオレの歴史に残る」という夢を与えているのだと思います。

このことからわかるように、アウトドアゲーム指導法講習会が継続し、アイオレシートが愛されている理由は、この事業に関わる人々「チームアイオレ」全体から、「人を応援し、育てる姿勢」がにじみ出て、人材育成の場として機能しているからだといはつくづく思うのです。

### ● 河合 佳代子 [かわい かよこ]

(有) UFMネイチャースクール 代表

1965年東京生まれ。東海大学体育学部社会体育学科卒業後、米国ニュージャージー州立自然保護学校、(財) キープ協会環境教育事業部、米国ヨセミテ国立公園教育部にて自然体験型環境教育に携わる。

その後新潟県に移住し22年目。現在、特定非営利活動法人越の里山倶楽部専務理事、新潟県環境審議会委員などをつとめる。



自然体験型のゲーム（色さがし）を指導  
（右側が河合講師。平成10年那須甲子講習会）

# 新しい自分の発見



## 荒牧 光子

IORE講習会に初めて参加したのは12年前。その時娘が淑徳大学で土井ゼミ3年生。「こんな活動あるよ」とチラシを見せてくれたことがキッカケでした。

当時自営で遊び塾を主宰していた私は、子ども達との活動に活かせるのではないかと思い参加しました。そこに集まったのは、野外教育の第一人者の先生方と、全国から学びにやってきた野外関係者や学生さん達でした。

講習会はアイスブレイクから始まりゲームが続きます。少し不安を感じながらも、活動が進んでいくうちに、私の気持ちが少しずつ変わってきました。

それは、子ども達に伝える…その前に自分自身が活動を楽しむこと、でした。講習会では、5つの活動をチームに分かれて体験します。

課題解決…体の大きい私は持ち上げ系の活動は苦手でした。同じグループになった方々はそんな私の気持ちもそっちのけ。全く気にしないんですね。気にしていたのは自分だけ。なんて気持ちが小さいのでしょうか。みんなで一つの課題をクリアするため、どうしたらいいかを考えていくことがチーム力を高めていくんですね。子ども達と活動するとき、私のような思いを持っている子がいたら、子ども達に私の体験したことを話そうと思います。自分が体験したことだからこそ、話せることってあると思います。

自然体験、自然学習、創造イメージ…自然も自然の中で生きている。そして私たち人間も自然と共に生かされている。ほとんど何も知らなかった私が、自然に興味を持ちはじめた始まりでした。自然の中にある学習素材の多いこと。今まで気づくこともなく通り過ぎてしまったことがもったいなかった。

一度知るともっと知りたくなる。知らなかったことを知ると人に話したくなる。そんな魔法の力が自然の中にありました。

夜のナイトゲーム…暗闇かくれんぼ、夜の星座



磐梯講習会で指導する荒牧講師(2014年)

作り、闇夜のお絵描き、カンテラでのナイト俳句(ハイク)などものすごく楽しかった。夜っていうだけでワクワクします。どれも経験したことのないものでした。

アイオレ講習会は、ゲームを体験するだけではなく、実は参加者自身でゲームを創り上げます。

ゼロからのスタートです。何する?どんなこと?ある程度枠組みを決めるまでが大変。たくさんアイデアは出るものの決定打に欠ける。この時間が苦しかった。辛かった。悩んで悩んで先が見えてきてからは早い早い。完成した時の達成感は気持ちいい。

アイオレは普通の講習会とは違う。ネタの提供ではなく、遊びとはなんなのか、野外活動とはなんなのかを感じさせてくれる。チームの中の自分を客観的に見られて、新しい自分を発見できる。

それは6人の先生方の温かいメッセージによるものが大きい。いつでもどんな時でも笑顔と優しい言葉と的確な助言。時々ちくっと刺さる時もありますが、先生方に少しでも近づけるように頑張ろう?って勇気づけられます。

1年参加したらまた行きたくなって、2年行ったらまた行きたくなって、ずるずるといっぱい参加しました。決して自分1人ではできない体験。それがIORE講習会です。

### ● 荒牧 光子【あらまき みつこ】

遊び塾はらっぱ主宰 淑徳大学非常勤講師

清和女子短期大学児童教育学科卒。学童保育18年の経験を経て、平成13年に遊び塾はらっぱを開設・主宰。教員や保育士等の研修のレク講師を務める。

# 関西人、アイオレに行く

アイオレ(IORE)と私



## 万場 るり子

関西からLCCで飛び、仙台経由で参加した平成25年、那須甲子青少年自然の家でのアウトドアゲーム指導法講習会。翌26年は夜行バスで東京に出、鈍行で磐梯まで北上しました。兵庫県在住の私は、どちらの回も最西端からの参加者でした。野外活動にも地域性、特に関西と関東での違いがある、と以前から耳にはしてはいましたが、私はずっと関西圏だけをフィールドに活動してきました。

講習会に初めて参加した年はちょうど社会人になり、学生時代ほど精力的に野外活動に取り組むことが難しくなり始めた頃です。自然の少ない都会で仕事中心の生活を送ることになかなか慣れず、野外を恋しく思う日々を過ごしていました。そんな折に、「遠いけれど、一度は行ってみたら。」とアウトドアゲーム講習会を薦められたのです。

さて、実際に講習会に参加してみて、まず驚いたのは、フィールドの植生の違い。恥ずかしながら、人生で初めてカラマツを那須甲子の森で見ました。クラフトで映えそうな、バラのようなかわいらしい松かさ、私の地元ではお目にかかることができません。磐梯でも、木立の高さや、白樺の林に目を奪われました。一口に自然や野外活動施設といっても、地域ごとにこんなにも差があるのかと思いました。

また、遠方から二度も参加したのは、講習会が本当に充実していたからです。学生から社会人まで、関東や東北を中心とした参加者の中で、わざわざ関西から来た、というのでいろいろな方が温かく迎えて下さいました。

初日のアイスブレイクで参加者同士が打ち解けたあとは、実際に自分たちがゲームを作っていくというのが大まかな日程ですが、このゲーム作りが毎回大いに白熱しました。個人的な印象ですが、関東の野外活動は、まずプログラムをしっかりと立て、計画を忠実に実行することを目指す傾向があるように感じます。対して関西では、「ノリ」と



秋のあけびと磐梯山

いいですか、大まかな枠を決め、あとは実際の状況に応じて展開していくような印象です。そういう違いもあってか、たびたび丁々発止しつつも、概ね和気あいあいと賑やかに取り組んだ記憶があります。振り返ってみて、同じグループだったみなさんには、申し訳なさとともに、それにも勝る感謝の思いでいっぱいです。

いろいろな年齢や職業の者が集まって、真剣に、ひとつのゲームを作り上げるというのは、この講習会だからこそできること。その中でも私の宝物になっているゲームが、初回に作った「大空キャンパス」です。5人程度が頭を接して放射状に寝ころび、空に向かって突き上げた手に引っ掛けた紐の輪を使って、指定された形を作るというこのゲーム。輪の向こうに見えた秋晴れの空は、本当にきれいでした。雲の変化にグループ全体で目を向け、あれこれと話した時間は、かけがえのない思い出です。

那須甲子の森や磐梯の山々、またそこで出会ったみなさんとの思い出が、仕事に明け暮れる昨今、ふと蘇ることがあります。そろそろアイオレが呼んでいるのかもしれないですね。ぜひまた、野外でお会いしましょう！

### ●万場 るり子 [まんばるりこ]

兵庫県キャンプ協会理事

平成2年生まれ、兵庫育ち。4歳の時、家族でキャンプを始めたのをきっかけに、野外活動に熱中。小学6年生からは、キャンプリーダーとして兵庫県内を拠点に活動している。現在は高校教諭として教壇に立ち、クラスの親睦を深めるアイスブレイクや、遠足でのアクティビティなど、体験活動の経験は様々な場面で活けると実感する日々を送っている。

# 活動に柔軟に導入できるシート

アイオレ (IORE) と私



## 関 隆嗣

私がアイオレに出会ったのは、所属する団体で実施していたキャンプやリーダー育成の中で、新しい展開が望めるアクティビティがないだろうかと模索していた中でのことでした。

キャンプの中で実施するアクティビティとして、若いリーダーにも実施しやすく、キャンプ参加者の気持ちや自然への感覚を向上できるように、1つでその課題をクリアできるものがないかと、非常に都合のいいことを考えていました。

従来の野外炊飯や、ハイキングなどの定番のメニューではなくて、フィールドの、折角の自然にもっと直に触れて、集団で楽しめる体験ができなにかと思っていたのです。

ネイチャーゲームやプロジェクトワイルドなど、『パッケージドプログラム』の導入も検討していましたが、アクティビティの目的とキャンプ自体の目的が結びつけ難く、効果的に導入するにはいくつかの課題がありました。

また、プログラムを実施するリーダーに対して、資格の維持や取得で経費が発生することもあり、パッケージドプログラムの導入に対してはかなり消極的な考えを持っていました。

私自身、ネイチャーゲームやプロジェクトワイルドの資格を取得して活動をしていたので、アクティビティの完成度や、体験を通じて目的を伝える手法には非常に関心を持っていました。

しかしながら、ライセンスの取得が必要なプログラムに対しては導入のしづらさも感じていました。

このように悶々とした日々の中で、アイオレシートと出会いました。もらったテキストを開いた瞬間、こうした想いが一気に晴れたことを覚えています。

アクティビティはアイデアの宝庫で、柔軟に活動へ導入ができるものでした。自然体験やチーム

ビルディングの要素など、効果やゲーム内容に応じてカテゴリ化されており、1枚のシートでリーダーが簡単に進行することができました。

そして、何よりも「講習会」が素晴らしいものでした。野外活動業界でもトップクラスの魅力的な講師陣から、知識の一方的な付与ではなく、体験しながら楽しく愉快地学ぶことができました。

講師からのアクティビティは、チームに分かれ体験できたので、参加者同士の交流も深まり、3日間の講習会は非常に充実した内容でした。そこで、出会った仲間との関係は、講習会後も続いています。

今年、講習会が30回目を迎えるということで、より多くの人にアイオレを体験していただきたいです。たくさんの仲間と一緒に、アクティビティを開発して、研鑽できる機会が今後も続いていくことを願っております。



### ● 関 隆嗣【せきたかつく】

公益財団法人国際青少年研修協会 主任 (国内交流プログラム担当)

1979年京都府生まれ。子どもの頃から野外活動に親しみ、現職にて小学生から高校生を対象とした野外活動・自然体験プログラムを担当。また、環境教育プログラムのパッケージドプログラムのファシリテーターとして普及活動もしています。

# アウトドアゲームから 学習教材へ

加藤 優

もう20年以上も前になります。淑徳大学の土井先生の声かけで日野春・志生館に行き、ゲーム講習会のお手伝いをしました。そこには野外教育や野外活動を専門として活躍される先生方がおられ、自分では何をどうするのかも、よく分からないままその場にいたのを覚えています。

聞けば、野外教育だけでなく広く使えるアウトドアゲームの教材を開発すること。翌日の信州高遠少年自然の家での講習会は、今年30回を教えるIORE SHEETを使った「アウトドアゲーム指導法講習会」の始まりなのではないかと思えます。

私がアウトドアゲームと本格的にかかわるようになったのは、淑徳大学のキャンプ実習からでした。はじめは、見よう見まねでしたが、それでも何度か関わっているうちに、自分なりのやり方があるのを感じた頃でもありました。その授業が南蔵王野営場(宮城県白石市)で実施されたとき、広大なフィールドを歩きながらプログラムやゲームをみんなで考えていたことが懐かしく思い出されます。

当時は、学生たちの「仲間づくり」や「協力・協働」あるいは「克己」に特化したゲームをとにかく作ろうとしていました。今思えば、それは成果ばかりに固執した、その場限りのものだったのかもしれませんが。しかし、現在IOREで展開されるゲームは、「自然の中で楽しく、教育的に価値あるもの」として体系付けられ、再現性の高いものになっています。折しも学校体育では、「心と体を一体とする」ことを前提に「体づくり運動」という学習内容が取り入れられました。

そのなかの「体ほぐしの運動」では「仲間づくり・仲間との交流」を目的とした活動の一つに従来キャンプなどで行ってきたゲームが「チャレンジ運動」として取り上げられました。アウトドアゲームといえば、主に課外の林間学校などで行うものですが、ゲームそのものが体育教材として実施されるようになりました。

学校教育では、学習指導要領で教科ごとに目標



創造イメージ型ゲームを指導する  
(平成13年10月 右端が加藤講師。妙高講習会)

が決められ、それぞれ学習内容が設定されています。その目標を効率的・合理的に達成するために教材が工夫され、授業が展開されます。野外活動で行われてきたゲームの教育的な価値が、明確で効果的・持続的な教材として学校教育で認められてきた証だと言えます。教員を目指す学生もそれに気づいているようです。数年前から小学校教員養成課程の学生の指導をしていますが、その授業で、「集合ゲーム」や「地蔵倒し」などとともにいくつかの課題解決型ゲームを展開しました。すると、学生から「このゲーム、知っている。どうして先生が知っているのですか？」との問いかけ。

詳しく聞くと、IOREを使ったゲーム講習会に自主的に参加して指導を受け、自らのサークル活動で学童保育などの教育ボランティアの際にそのゲームを活用しているそうです。野外活動の専売特許のようだったゲーム。今、それが広く一般化して教育に携わる多くの学生がその価値を認めて活用している、そんな感じがしました。

IOREのよさは、エンタテナーを必要とせず、主役はあくまで「参加者」であることです。参加者一人一人が主役となって活動を展開し、そこにかかわる全員が教育的意義を高めていく。IOREは今、それを可能にするポピュラーな学習教材になったと言えます。

## ●加藤 優 [かとうまさる]

埼玉県立大学 准教授

1959年生まれ、大分県出身。筑波大学大学院(スポーツ社会学専攻)を修了後、筑波大学附属小学校教諭を経て、現職。





# アウトドアゲーム指導法講習会

## これまでの歩み

### (通称「アイオレ」講習会)



回/場所	年月日・参加者数	指導講師	課題解決型	自然学習型	自然体験型	創造イメージ型
1 信州高速	1993.8.4~8.6 22名(男17女5) 江田昌佑、土井浩信、日高正明 桜井義維英、古屋顕一、加藤 優		クモの巣 ほか	【自然学習型】ネイチャーヒアリング、林間ことば集め、森のビンゴ ほか 【野外生活型】テント設営、原始火おこし、自然を測ろう ★ナイトゲーム 夜の音さがし、夜の訪問者		
2 妙高	1994.6.10~6.12 30名(男19女11) 江田昌佑、土井浩信、古屋顕一 加藤 優、鶴川高司、野口和行			【自然学習型】危険がいっぱい、林間ことば集め、森のビンゴ、お天気博士 【野外生活型】ロープ遊び、コンパスゲーム、マイベッド作り ★ナイトゲーム 星座遊び		
3 那須甲子	1995.8.13~8.15 38名(男24女14) 土井浩信、平野吉直、瀧深 徹 鶴川高司、野口和行		ウォーターパニック ラインナップ、いなすま脱出 虎穴に入らずんば… 人間測量		森のビンゴ (平野) サウンドスケッチ (瀧深) 捜査犬ゲーム (野口) カメレオンゲーム (鶴川)	
4 中央	1996.7.1~7.3 45名(男37女8) 江田昌佑、土井浩信、瀧深 徹 高瀬宏樹、鶴川高司、野口和行		クモの巣、風に吹かれて ビーム、ラインナップ ブラインドトレイン ★星座ゲーム(土井)		ネイチャーネット (野口) サウンドスケッチ (鶴川) 自然が教える1・2・3…(高瀬) サウンドクラフト (土井)	
5 岩手山	1997.8.18~8.20 13名(男12女1) 江田昌佑、土井浩信、久保田康雄 平野吉直、鶴川高司、野口和行		ジャイアントシーソー ラインナップ、島渡り、クモの巣 トラストフォール バランスウォーク、ウォール ★夜の音さがし(土井)		林間ことば集め (鶴川) 見れば見るほど なるほど(野口) 手と鼻で自然観察 (久保田) サウンドスケッチ (平野) サウンドクラフト (土井)	
6 信州高速	1997.8.25~8.27 14名(男11女3) 土井浩信、平野吉直*、古屋顕一 鶴川高司、野口和行、五嶋慎也		森の一番星、あ！ひらめいた ラインナップ、一休さんの日本移動 ナイトトレイン、クモの巣 ★夜の音さがし(土井)		森のクッキング (古屋・鶴川) 手と鼻で自然観察 (野口) 自然とトークング (古屋) サウンドクラフト (土井)	
7 オリゼン	1998.1.29~1.31 40名(男27女13) 土井浩信、高瀬宏樹、針ヶ谷雅子 鶴川高司*、野口和行 ★光の虫眼鏡(土井)		風に吹かれて 森の中の 危険物処理班 いなすま脱出 (高瀬)	ネイチャーネット 森のビンゴ 自然が教える1・2・3 (針ヶ谷)	林間立木取り ハンティングゲーム カメレオンゲーム (野口)	この木 誰の木 気になる木 見れば見るほど なるほど！ 森の絵本作り (鶴川)
8 那須甲子	1998.6.5~6.7 24名(男19女5) 土井浩信、平野吉直、河合佳代子 鶴川高司*、野口和行 ★光の虫眼鏡(土井)		クモの巣 いなすま脱出 トラストフォール ラインナップ 目隠し木登り	ネイチャーネット 森のビンゴ 手と鼻で自然観察 自然が教える1・2・3 (鶴川)	林間立木取り 色さがし 森のレストラン (平野・河合)	見れば見るほど なるほど！ サウンドスケッチ 森の絵本作り (野口)
9 立山	1998.8.17~8.19 46名(男18女28) 江田昌佑、土井浩信、清水雅己 平野吉直、鶴川高司、野口和行* ★夜の音さがし(土井)		ラインナップ ヒューマンネット クモの巣、日本列島 みんなで渡れば… ウォーターパニック ブラインドウォーク	森のビンゴ 森のつながり探し 星座ゲーム 手と鼻で自然観察 (土井・野口)	林間立木取り ハンティングゲーム 森のレストラン (鶴川・五嶋)	見れば見るほど なるほど！ 不思議発見！ 森の絵本作り (平野・清水)
10 奈良曽爾	1999.8.19~8.21 27名(男15女12) 土井浩信*、平野吉直、平田裕一 高見 彰、鶴川高司、野口和行 ★星座ゲーム(平野)		ラインナップ いなすま脱出 宇宙人 ブラインドスクエア マッチングパズル	カムフラージュ 色あわせ 色のグラデーション (平田・鶴川)	自然が教える1・2・3 林間ことば集め 絵っ！宝地図？ 森のレストラン (土井・高見)	時の玉手箱 サウンド スケッチ 森の絵本作り (平野・野口)

回/場所	年月日・参加者数	指導講師	課題解決型	自然学習型	自然体験型	創造イメージ型
11 オリゼン	1999.10.29~10.31 42名(男30女12) 土井浩信、平野吉直、河合佳代子 加藤 優、鶴川高司*、野口和行 ★星座ゲーム(土井)		フラフープスウィング 宇宙人 ブラインドトレイン	手と鼻で自然観察 森のビンゴ 自然が教える1・2・3 林間ことば集め (土井・河合)	林間立木取り ハンティングゲーム 色さがし (鶴川・野口)	見れば見るほど な-るほど! 時の玉手箱 森のレストラン (平野・加藤)
12 赤城	2000.6.16~6.18 45名(男30女15) 土井浩信、平野吉直、高見和至 岡村泰斗、鶴川高司*、野口和行 ★間夜のお絵かき他(野口他)		魔法の鏡/ギフト ブラインドスクエア ピサの斜塔 エレクトリックフェンス みんなで渡れば...	手と鼻で自然観察 色さがし ねっこほじほじ (平野・高見)	しりとりハンティング 森のレストラン (野口・岡村)	森のつながり探し 見れば見るほど な-るほど! お話しようよ! (土井・鶴川)
13 乗鞍	2000.10.6~10.8 42名(男29女13) 土井浩信、平野吉直、平田裕一 永吉英記*、鶴川高司、野口和行 ★ナイトハイク俳句(平野)		エレクトリックフェンス ピサの斜塔 マリッジリング 一番星、ギフト バケツボール	匂いさがし (捜査犬ゲーム) 自然が教える1・2・3 (野口・永吉)	人間ダーツ しっぽ取り カメレオンゲーム (平野・鶴川)	森のつながり探し 音取物語 お話しようよ! (平田・土井)
14 磐梯	2001.6.15~6.17 22名(男8女14) 平野吉直、三沢篤史* 松田幸也、鶴川高司、野口和行 ★間夜のお絵かき(鶴川)		バケツボール ピサの斜塔、宇宙人 ブラインドスクエア お告げ 大脱走@net	色さがし 森のビンゴ 森のつながり探し de ART (野口・松田)	林間だるまさんが 転んだ キャッチ&リリース カメレオンゲーム (平野・三沢)	見れば見るほど な-るほど! モニタージュ 森のレストラン (鶴川)
15 妙高	2001.10.12~10.14 35名(男17女18) 土井浩信、平野吉直、池畑亜由美 加藤 優*、鶴川高司、野口和行 仁田坂洋子 ★夜の音さがし(土井)		大脱走@net 森の危険物処理班 迷走UFO、お告げ 線路は続くよ ジャイアントシーソー	ねっこほじほじ 三身(三位)一体 (平野・池畑)	だるまさんが転んだ ハンティングゲーム デジカメ探偵団 (鶴川・仁田坂)	親の目、子の目 だ-れの目 スカイライト ギャラリー (野口・加藤)
16 赤城	2002.10.25~10.27 45名(男26女19) 土井浩信、平野吉直、多田 聡* 松田 恵、鶴川高司、野口和行 ★森の妖精たち(野口)		PAクモの巣くぐり PA浮き台わたり PAジャイアントシーソー等 DO上げよう フラフープゲーム	森のつながり探し ちょっとだけよ! (鶴川・多田)	お宝当てましょう 絵っ!宝地図? (土井・野口)	見れば見るほど な-るほど! 時の玉手箱/ 音取物語 (平野・松田)
17 那須甲子	2003.11.7~11.9 51名(男26女25) 土井浩信、平野吉直、河合佳代子 三沢篤史、鶴川高司、野口和行* ★夜の色さがし(平野)		ブラインドスクエア/ 一番星 ラインナップ ピサの斜塔/宇宙人 ヘリウムフープ いなすま脱出	葉っぱのトランプ 母(葉々)を訪ねて その木(気)に生る言葉 (河合・野口)	モニタージュ 林間立木取り カメレオンゲーム (平野・鶴川)	サウンド スケッチ スカイライト ギャラリー (土井・三沢)
18 吉備	2004.11.5~11.7 47名(男29女18) 土井浩信、平野吉直、近藤 剛* 甲斐知彦、鶴川高司、野口和行 ★光の虫眼鏡(鶴川)		エレクトリックフェンス 知恵の一本橋 バケツボール 迷走UFO 森の中の危険物処理班	森のつながり探し 身振り手マネ寄せ集め (土井・鶴川)	桃太郎ジャンケン 鬼ヶ島の鬼退治 宝物見つけた (野口・甲斐)	つないで ワクワク (平野・近藤)
19 磐梯	2005.10.21~10.23 54名(男30女24) 土井浩信、平野吉直、河合佳代子 賀来恒久、鶴川高司*、野口和行 ★夜のかくれんぼ(土井)		魔法のじゅうたん マッチングパズル 大脱走@ネット 目かくし木登り ブラインドトレイル	色さがし 手と鼻で自然観察 (平野・河合)	森のビンゴ/ お宝当てましょう 森のレストラン (土井・野口)	モニタージュ 十二ひと絵 (鶴川・賀来)
20 妙高	2006.10.13~10.15 43名(男13女30) 土井浩信、平野吉直*、小菅江美 永井将史、鶴川高司、野口和行 ★星座ゲーム(野口)		ジャイアントシーソー ラインナップ クモの巣、地球防衛隊 迷走UFO 森の中の危険物処理班	ちょっとだけよ! 森のつながり探し (鶴川・小菅)	ハンティングゲーム モニタージュ (平野・永井)	音のビンゴ 音取物語 (土井・野口)

アウトドアゲーム指導法講習会：これまでの歩み

回/場所	年月日・参加者数	指導講師	課題解決型	自然学習型	自然体験型	創造イメージ型
21 立山	2007.10.12~10.14 39名(男19女20) 土井浩信、平野吉直、小菅江美 渡邊 仁、鶴川高司、野口和行* ★夜のかくれんぼ(平野)		ヘリウムバンブー トラフィックジャム みんなで渡れば… 目かくし列車 脱出指令	ははをたすねて (野口・渡邊)	林間立木取り 色さがし (土井・鶴川)	見れば見るほど なるほど! カメレオン ゲーム (平野・小菅)
22 乗鞍	2008.10.24~10.26 37名(男22女15) 土井浩信、平野吉直、中野友博* 永井将史、鶴川高司、野口和行 ★光の虫眼鏡(鶴川)		目かくしバズル ヘリウムフープ 靴(くっ)つけよう 迷走UFO、脱出指令 空飛ぶピカチュウ	ちょっとだけよ! 色さがし (土井・平野)	乗鞍おに 居眠り爺さん 宝物見つけた (野口・中野)	この木 誰の木 気になる木 スカイライト ギャラリー (鶴川・永井)
23 那須甲子	2009.10.16~10.18 34名(男18女16) 土井浩信、平野吉直、鎌水 愛 瀧直也、池畑亜由美*、鶴川高司 ★夜の音さがし(土井)		大脱走、お告げ 人間知恵の輪ほか 目隠し木登り 宇宙人 ピサの斜塔	森のつながり探し 森のピンゴ (鶴川・滝)	林間立木取り 森のレストラン (平野・池畑)	サウンド スケッチ ピカンの音 (土井・鎌水)
24 静岡朝霧	2010.10.15~10.17 37名(男19女18) 土井浩信、平野吉直、鈴木由美 高瀬宏樹*、池畑亜由美*、 鶴川高司 ★星座づくりゲーム(平野)		ボルトロリー ヘリウムフープ スカイツリー クジラの噴水 ひょうたん島 クモの巣	林間ことば集め ネイチャーヒアリング (高瀬・鈴木)	ハンティングゲーム モンタージュ (土井・池畑)	色さがし カメレオン ゲーム (鶴川・遠藤)
25 信州高遠	2011.10.7~10.9 54名(男28女26) 土井浩信、平野吉直、角田貴世 瀧 直也、吉田理史*、鶴川高司 ★ナイトハイク(吉田)		スカイツリー クジラの噴水 みんなでソーレ! マシュマロリバー パルメントロリー ラインナップ	きつねの小判 ちょっとだけよ! (土井・角田)	林間立木取り 森のレストラン (鶴川・吉田)	手と鼻で 自然観察 色いろ紙芝居 (平野)
26 乗鞍	2012.10.6~10.8 51名(男20女31) 土井浩信、平野吉直、西島大祐* 木本多美子*、鶴川高司 野口和行 ★光の虫眼鏡(野口)		移り木、ハチの巣 サニーサイドUP ズーム 宇宙人 迷走UFO	お宝さがしましょう 自然が教える1・2・3 (鶴川・野口)	円盤キャッチャー モンタージュ (平野・西島)	天才画家と助手 森のピンゴ (土井・木本)
27 那須甲子	2013.10.12~10.14 38名(男19女19) 土井浩信、平野吉直、瀧 直也* 鎌水 愛*、鶴川高司、野口和行 ★闇夜のお絵かき(鶴川)		棒一つとしないで ヘリウムスティック ワープスピード 脱出指令 パイプライン 五十音キーパンチ	森のつながり探し カメレオンゲーム (平野・鎌水)	ハンティングゲーム ナスカしの地上絵 (土井・野口)	色さがし スカイライト ギャラリー (鶴川・瀧)
28 磐梯	2014.10.11~10.13 22名(男14女8) 平野吉直、瀧 直也、荒牧光子* 北原澄高*、鶴川高司、野口和行 ★見れば見るほど(瀧)		リバー、大脱走 おじゃまします輪 地球防衛隊 目隠し列車 クジラの噴水	根っこほじほじ 「ちょっとだけ」よ (瀧・野口)	林間立木取り 森のレストラン (鶴川・荒牧)	三位一体 いろいろ紙芝居 (北原・平野)
29 赤城	2015.10.10~10.12 28名(男11女17) 土井浩信、平野吉直、加々美貴代 瀧直也*、遠藤大和*、野口和行 ★光の音さがし(平野)		移り木、お告げ 明日に架けるハシ マグネットウォーク 危険物処理班	「もうちょっとだけ」よ 名付け親 (土井・遠藤)	人間ダーツ モンタージュ (平野・瀧)	イメージ 借り物競争 ネイチャー コラージュ (野口・加々美)
30 信州高遠	2016.10.8~10.10 土井浩信、平野吉直、加々美貴代 遠藤知里、鶴川高司、野口和行					

[注記] ①. 実施場所は国立青少年教育振興機構の「~青少年交流の家」「~青少年自然の家」で、名称は省略。オリセンは国立オリンピック記念青少年総合センターの略。  
24回のみ静岡朝霧青少年野外活動センターで実施。  
②. 文中の講師の敬称は省略しました。  
③. \*印はアイスブレイクの指導を行った講師 ④. ★はナイトゲームを示します。



# プログラムを介して伝わること、 人を介して伝わること

野口 和行

「自然体験活動そのものに大きな学習効果があるし、自然が大きな変化を与えてくれると言いながら、いかなる場合にもそれを生かすのは、やはり人しだいです。「人を介して伝わる」のです。」

IOREシートの生みの親にして、私にとって野外教育の師匠の1人である本研究所理事・自然体験活動推進委員の土井浩信先生はこう仰います。

私たちは、自然の中で、楽しみながら、互いに競い合い、助け合い、共感しながらゲームのような感覚で取り組んでいくうちに、プログラムの中に込められた「教育的なねらい」に対するさまざまな気づきを自分のものにしていくことが理想的だと考えています。

IOREシートは、目的・準備するもの・活動の実際・ふりかえりの方法などが簡潔にまとめられ、1つのパッケージになった自然体験のプログラムです。私たちはIOREシートというプログラムを介して、子どもたちに、また子どもたちに関わる指導者の皆さんに伝えたいことがあります。

私たちは、IOREシートを活用した2泊3日の「アウトドアゲーム指導法講習会」を行っています。講習会には、必ず自然体験活動の第一線で活躍されている講師の方をお呼びしています。

講習会2日目には、参加者全体を3つのグループに分け、「自然体験」「自然学習」「創造イメージ」という3つのセッションの活動をすべて体験していただきます。そこには必ず講師2名がついて指導に当たります。3日目には、参加者の方々にそ

れぞれの教育的なねらいを達成するためのゲームを創作し、発表する機会をつくっています。

それは、活動のフィールドや活動に関わる子どもたちに向き合う指導者の「人となり」を通して伝わることを経験的に学んでいるからです。私たちは、アウトドアゲーム指導法講習会という場で、そこに集う人たちを介して、伝わっていくものがあることを信じています。

30回を迎える今年度の講習会でも、「プログラムを介して伝わること」、「人を介して伝わること」の両方を大切にしながら、貴重な学びの機会を作り上げていきたいと考えています。

ところで、ニュースレターの編集委員で、3度にわたり講習会の講師も務められた中村（池畑）亜由美さんが、5月12日に永眠されました（享年41歳）。彼女という「ひと」を介して、本当に多くの人々が、自然体験活動も含めた、たくさんの新しい扉を開けていきました。

謹んでご冥福をお祈りすると共に、私がこれから伝えていきたいことの中に、彼女の思いを少しでも取り入れていきたいと思っています。

● 野口 和行 [のぐち かすゆき]  
慶應義塾大学体育研究所准教授



朝霧高原で講師を  
された頃の亜由美さん  
(2010年10月中旬)